



内子高等学校 3年

(左から)

信高	美桜 ^{みお} さん (新谷中出身)
白石	怜愛 ^{れいあ} さん (大洲北中出身)
部長 西山	穂乃 ^{ほの} さん (大洲北中出身)
副部長 大野	美羽 ^{みう} さん (肱東中出身)
川上	義人 ^{よしと} さん (大洲南中出身)
寺尾	陸 ^{りく} さん (大洲東中出身)

内子高校を訪れると体育館から「ドンドン」と威勢の良い音が聞こえてきます。

内子高校郷土芸能部は、昨年12月に行われた愛媛県高等学校総合文化祭の郷土芸能部門で優秀賞（1位）を獲得し、8月3日(土)から岐阜県で開催される全国高等学校総合文化祭に出場します。3年生の6人は全員が大洲の出身で、その多くが郷土芸能部で太鼓を叩く先輩たちの姿に憧れて内子高校への進学を決めたといいます。初めは一曲で腕が上がらなくなるような激しい演奏も、今では振り付けなどパフォーマンスもしっかりこなしながら笑顔で演奏します。

大会だけでなく、地域に出向いてイベントや催しを演奏で盛り上げることを活動の一つとして大切に、地域から愛されている郷土芸能部ですが、昨年、太鼓演奏の要でもある大太鼓に、経年劣化による多額の修理費用が必要となる事態が発生。しかし、今年にかけてクラウドファンディングで寄付を募ったところ、非常に多くの人たちからの支援があり目標額を達成することができました。これも郷土芸能部と地域が積み重ねてきた交流の賜物（たまもの）でしょう。

「もちろん上位を狙いたいですが、一番は支援して下さった人たちに向け、自分たちにできる最高の演奏を披露したい」（西山さん）と練習に励み、地域の思いが込められた大太鼓と共に全国大会に挑みます。

HighSchool NOW

～市内5校の高校生によるリレーエッセイ～

Vol.89 大洲高等学校

大洲高校ビジネス部です。私たちは、6月2日(日)に宇和島東高校で行われた全国高等学校ワープロ競技大会愛媛県予選に出場しました。

団体の部では、出場校16校のうち見事1位に輝き、7月下旬に行われる四国大会、8月上旬に行われる全国大会への出場が決まりました。当日は少し緊張もありましたが、機械の故障もなくいつも通りのスピードで打つことができました。

個人の部では、2年生の清水が10分間で1,749文字を打ち、83人中1位を獲得しました。日頃の練習の成果を最大限に発揮し、素晴らしい結果を得ることができたと思います。

全国大会では、愛媛県代表の自覚を持ち、県大会を超える記録を出せるよう、精一杯がんばります。応援よろしくお願いします！



一次回は大洲高等学校肱川分校からです。ー

受章おめでとうございます

瑞宝単光章

元長浜町消防団分団長

井 上 幸 一 さん
(白滝)



ドラゴンボートが湖上を駆ける

5月19日(日)、おしどり湖で第27回おしどり湖ドラゴンボート大会が開催され、県内外から24チーム総勢289人が参加しました。この日は5月としては肌寒い日でしたが、出場者は強風の吹く中、掛け声や太鼓の音に合わせてタイムを競い、観客からの声援も相まって熱気に満ちた大会となりました。

熱戦を制したのは大洲高校カヌー部応援隊。見事3連覇を達成しました。



笑顔の花が咲きますように

毎年、第一生命保険株式会社から学校の美化活動を応援しようと花苗の寄贈を受けています。

今年も大洲市内の7つの小学校へサルビアやナデシコの苗、合計336株を頂きました。

5月21日(火)には市役所で贈呈式が行われ、松山支店大洲営業所の松本理沙^{りさ}オフィス長から櫛部教育長へ目録が手渡されました。

その後各小学校へ配付され、かわいらしい苗にどの小学校でも喜びの声が上がっていました。



写真：新谷小学校

市民や観光客の心に潤いを

大洲のうかいをはじめとする本格的な観光シーズンを控えた5月29日(水)と6月5日(水)に、大洲市公園等施設管理推進協議会のみなさんが、うかい遊覧船の船着き場や対岸の肱川緑地公園、駅前広場の花壇に花の苗を植えました。この花壇づくり活動は平成6年から続けられており、今回は大洲農業高校から購入したマリーゴールドやサルビア、ポチュラカなど1,500株が植えられ、訪れる人を楽しませてくれます。





今年もスタート！ 大洲のうかい

6月1日(土)、うかい開きが行われました。日暮れ前、今シーズンの安全を願う神事と開幕式がうかいレストプラザで行われ、14隻の屋形船が、臥龍太鼓の音に見送られながら川下りを開始。夜になり、かがり火をともした鵜舟と共に鵜匠の操る鵜たちが屋形船のすぐ横までやって来ては懸命にアユを捕る姿を披露すると、その姿に乗船客たちから歓声が上がりました。大洲のうかいは9月20日(金)まで開催されます。



肱川と久米川の堤防完成を報告

河川激甚災害対策特別緊急事業のうち菅田地区や久米地区などで行われていた県施工分12工区の堤防工事が完成し、6月2日(日)に菅田コミュニティセンターで完成報告会が開催されました。

地元住民や工事関係者などが集まる中、愛媛県大洲土木事務所の越智健二^{けんじ}所長が工事概要を説明し「今回の激特事業の完成が、平成30年7月豪雨災害からの創造的復興の一助になれば」と話しました。



消防操法大会が開催されました

日頃の消防訓練の成果を競う「第34回愛媛県消防操法大洲喜多地区大会」が6月2日(日)に河川敷グラウンドで開催され、大洲喜多地区の消防団11チームが出場しました。大会では小型ポンプ操作の正確性やスピードを競い、どのチームも節度ある動きで素晴らしい操法を披露していました。

【県大会出場】

大洲市代表 大洲市消防団 中央分団

内子町代表 内子町消防団 内子方面隊大瀬分団 第4部



地域おこし協力隊に初の外国人

6月3日(月)、新たな地域おこし協力隊員としてランキン・パベル隊員に辞令を交付しました。パベル隊員はカナダ・トロント出身で日本の古武術^{たしな}を嗜む40歳。義祖母の住むこの大洲を訪れた際、人の温かさや美しい景色が大好きになり、地域おこし協力隊員として働くことを決意したそうです。

今後は、観光サイトの翻訳や英語での観光ガイドなどを行いながら、外国人観光客と大洲をつなぐ役割を任っていく予定です。

民間ヘリコプターの活用に向けて

災害時などに民間ヘリコプターを活用しようと、包括連携協定を結んでいる一般財団法人国際災害対策支援機構と実証事業を行いました。6月10日(月)、中村多目的グラウンドに4人乗りヘリコプターが飛来。地域の人たちを交えて搭乗体験と意見交換会を行いました。体験者からは「思ったより乗り心地が良かった。さまざまなシーンで活用できると思う」などの声が聞かれました。



地域住民から知事に提言

地域住民と知事の意見交換会「知事とみんなの愛顔でトーク」が6月12日(水)に総合福祉センターで開催され、大洲市からの4人を含む10人が中村時広知事と意見を交えました。それぞれの立場からの幅広い提言に知事も深くうなずきながら聞き入り、県の施策などを交えての活発な話し合いの場となりました。

大洲市からの参加者と提言は以下のとおりです。

横山真美子さん「観光施策の展開について」

津田俊太郎さん「農業参入の機会拡大について」

兵頭栄治さん「空き家・空き地対策について」

梅木健一さん「人口減少対策について」(写真左から)



みんなで海を育てよう

5月29日(水)、長浜海水浴場で行われたヒラメの稚魚放流事業に長浜小学校の3年生38人が参加しました。この事業は、地元の海や魚に親しんでもらおうと長浜町漁業協同組合が実施していて、この日は8cmほどの稚魚約4千匹が用意されました。子供たちは波に気を付けながらバケツに入った稚魚を次々と海に放ち、感想を聞くと「ヒラメの子供は初めて見た。魚は食べるのも大好きなので早く大きくなってほしい」と素直な声が聞こえてきました。



みんなで海をキレイに

また、6月8日(土)には、同じく長浜海水浴場で南海放送(株)主催の清掃イベント「太陽石油 presents GO-MIX! in 大洲市長浜海水浴場」が開催され、160人以上がボランティアとして参加し、海岸に漂着したゴミを拾いました。イベントでは長浜高校吹奏楽部の演奏やファンファーレ、水族館部による子供向けのタッチプールも行われ、会場を盛り上げました。この日の活動により長浜海水浴場は夏の間に向けて、すっかりきれいになりました。



写真提供：南海放送株式会社

【かぼちゃマフィン】



材料（約10個分）

カボチャ（皮・種なし）	約250g
ホットケーキミックス	200g
卵	2個
砂糖	80g
バター	80g
牛乳	60cc

作り方

- ① カボチャは種を取り、皮をむいてレンジにかける（600W 5分程度）
 - ② カボチャをつぶし、バターを混ぜる。
 - ③ 別のボウルで砂糖と卵を混ぜる。
 - ④ ②と③を混ぜ合わせて、ホットケーキミックスを入れ、牛乳も入れて混ぜる。
 - ⑤ ④をマフィン型に流し入れ、170℃のオーブンで25分～30分焼く。
- ※砂糖はお好みで調整できます。焼き加減もお好みで。

カボチャの栄養

ビタミンやミネラルを豊富に含んでおり、特にビタミンEとβカロテンは野菜の中でもトップクラスです。ビタミンEは血行を促進し、βカロテンは免疫力強化に働きます。



知っておくとお得「カボチャの保存」

丸のままだと長期保存ができますが、切り分けたものは傷みやすいので、一度包丁を入れたら種とワタを取り除いてから、ラップに包んで冷蔵庫で保存しましょう。

【レシピ提供：健康増進課】

CDO補佐官 鈴木邦和の

第19回

DXのすゝめ



日本の選挙は、有権者が投票所に直接足を運んで、投票用紙に候補者や政党の名前を書きます。しかし、世界には選挙のデジタル化を進めている国があり、例えば世界で初めて国政選挙にインターネット投票を導入したエストニアでは、2005年からeIDカード（日本でいうマイナンバーカード）を活用して電子投票を実施し、今では、投票者の約半分がネット投票を利用するなど着実に普及しています。特に興味深いのは、近年は55歳以上の利用者が急増していることです。ネット投票で若い世代の投票率向上を期待する声は大きいですが、むしろ高齢世代の投票コストを下げるという効果が期待できそうです。

一方、ネット投票には課題もあります。例えば自宅からインターネットで投票する場合に家族が代わりに投票してしまうといった「なりすまし投票」はよく指摘される問題です。しかし、エストニアでは、選挙期間中であれば投票先を何度も選び直せる仕組みを採用し、こうした問題にも対処できています。

日本でも、まずは在外投票を中心にインターネット選挙を導入していくべきとの議論が進んでいます。今後、選挙のDXも進んでいくのか、注目していきたいですね。

文化財

刀銘

「豫大洲藩岡本治郎九郎源隆國 文政二年八月吉日」
県指定有形文化財
(工芸品)
個人所有



この刀は、大洲藩のお抱え刀匠であった岡本家6代^{たかくに}隆國（1774～1845）が、文政2（1819）年8月に作刀したものです。刃長71.5cm、反り1.5cm、刃文は中直刃^{はもん ちやうすぐは}となっています。

造り込みを終えた刀身に、強度が必要な刃側は薄く、それ以外の部位は厚く焼刃土^{やきばつち}（粘土や炭を混ぜ調合したもの）を塗り、火で加熱した後、直ちに水に入れ急冷することで、刀身の反りと刃文が生み出されます。刃文には「乱れ刃」と「直刃」の2種類がありますが、均一に真っすぐな直刃に仕上げるには高度な技術が必要です。

隆國は特に刃文の技を磨き、互の目などの乱れ刃を良くしましたが、ついに直刃の妙味を会得したとされます。この刀は、ほぼ均一な直刃の出来栄の作であり、隆國の代表的な名品です。

（昭和46年4月6日指定）

肱川と ともに

Vol.2

毎年、夏の夜の肱川を舞台に繰り広げられている「大洲のうかい」は、今年で67年目を迎えました。

日本三大鵜飼にも数えられ、大洲の夏の風物詩として多くの観光客を楽しませています。今回は「大洲のうかい」の歴史と今について紹介します。



うかいの始まり

1956年（昭和31年）当時の沼田恒夫大洲市長や^{つねお}松垣吉太郎大洲商工会議所会頭らの提唱により、岐阜県岐阜市の長良川や広島県三次市の馬洗川などを視察・研究の後、鵜飼いを観光の柱にしようと取り組んだのがきっかけでした。鵜飼いに使われる鵜は、高知県仁淀川の漁師から譲り受け、1957年（昭和32年）から「大洲のうかい」がスタートしました。当初は川舟十数隻で始めたものの、昭和50年代以降の隆盛期には60隻を超える屋形船が行き交い、年間2万8千人以上の観光客を迎えた記録が残っています。



「大洲のうかい」の魅力

何といても「大洲のうかい」の魅力は、「合わせうかい」という全国でもあまり見られない手法で行われることです。

鵜飼漁を行う鵜舟のすぐ横を屋形船が並走することで、水しぶきがかかるほど間近で鵜がアユを獲る様子を見ることができ、鵜匠の見事な手縄さばきによるダイナミックな鵜飼ショーは「大洲のうかい」の最大の魅力です。また夕闇に浮かぶ臥龍山荘や大洲城を眺めながら郷土料理を楽しむこともできます。



合わせうかい

お得なキャンペーン情報

ご家族で夏の思い出を作りたい！という人たち向けに、月替わりでお得な割引キャンペーンを実施します。詳しくは二次元コードから確認してください。ぜひこの機会に「大洲のうかい」を堪能してみませんか？

ご乗船をお待ちしています。

